

EF3022F-120Y ユーザーズガイド

株式会社 彗星電子システム
第3版 2011年6月 発行

1. 概要

EF3022F-120Yは、EFP-I本体に装着して使用するEFP-I本体専用パラレル書込みユニットです。

EF3022F-120Yを使用することにより、ルネサスエレクトロニクス製M16C/22シリーズのフラッシュメモリ内蔵MCUへの書込み、読み出しができます。

また、EF3022F-120Yには120ピン0.4mmピッチLQFP(120P6R-A)用ICソケットを実装しています。

図1. 1にEF3022F-120Yの外形図を示します。

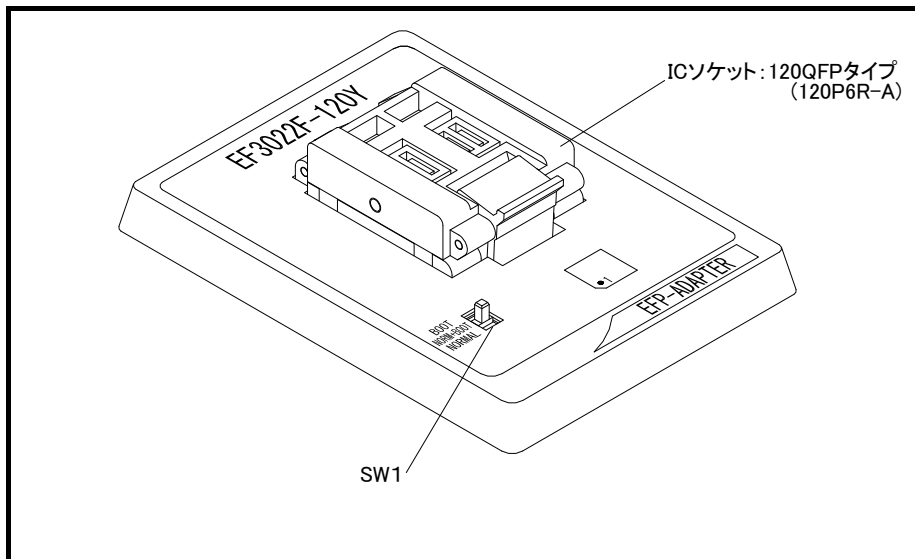


図1. 1 EF3022F-120Y外形図

2. MCUの挿入方法

MCUを挿入するときは、EF3022F-120Y上ICソケットの1番ピンとMCUの1番ピンを合わせて挿入してください。誤挿入はMCUに致命的な破損を引き起こしますので、十分ご注意ください。

図2. 1にMCUの挿入方法を示します。

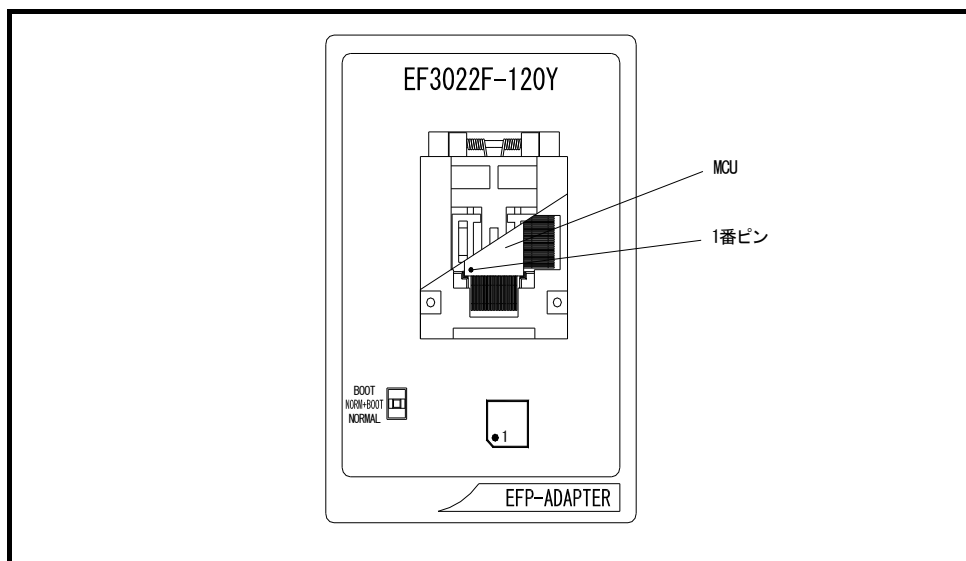


図2. 1 MCUの挿入方法

3. 仕様

表3. 1にEF3022F-120Yの仕様を示します。

表3. 1 EF3022F-120Y仕様

MCUタイプ	メモリタイプ	対応MCU名	プログラムメモリアドレス	SW1
M3022xFC (BOOT)	フラッシュメモリ	M3022xFCFP	DE000H ~ DFFFFH	BOOT
M3022xFC (NORMAL)	フラッシュメモリ	M3022xFCFP	E0000H ~ FFFFFH	NORMAL
備考	動作クロック：2MHz (EF3022F-120Y上のセラミック発振子から供給) 電源：EFP-Iから供給 本ユニットは以下の環境にてご使用ください。 <EFP-I本体> Monitor Version : Ver. 3.00.05 以上 <コントロールソフトウェア> WinEFP Version : Ver. 1.02.07 以上 EFP MCU.TBL Version : Ver. 3.02.06 以上			

4. MCUユニットの清掃について

MCUユニット上のICソケットの接触不良を防止するために使用回数に応じて定期的にICソケット内の接触ピンをブラシ等で清掃ください。

5. SW1の設定について

EF3022F-120YのSW1を設定することによりBOOT領域とNORMAL領域への書込みおよび読み込みが行えます。

各領域の設定方法を以下に示します。

1) BOOT領域の設定

EF3022F-120YのSW1をBOOT側に設定し、WinEFPの環境設定ダイアログ内の使用デバイスパラメータを”M3022xFC (BOOT)”に設定します。

2) NORMAL領域の設定

EF3022F-120YのSW1をNORMAL側に設定し、WinEFPの環境設定ダイアログ内の使用デバイスパラメータを”M3022xFC (NORMAL)”に設定します。

※EFP-I本体のデバイスLED (赤) が点灯時はSW1、2の設定を行わないでください。
※SW1を”NORM+BOOT”に設定しNORMAL領域とBOOT領域を一括で読み出しおよび書込みを行う場合は、**7. Device batch macro instruction (デバイス一括マクロ)**を参照してください。

6. Erase (イレーズ)

イレーズコマンド内のイレーズタイプパラメータでブロック消去および全ブロックの一括消去が行えます。

イレーズコマンドのパラメータ入力ダイアログを図6. 1に示します。

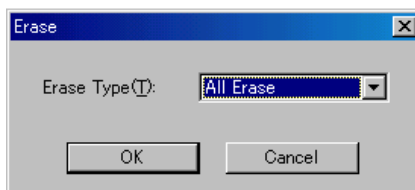


図6. 1 イレーズコマンドパラメータ入力ダイアログ

1) Erase Type (イレーズタイプ)

イレーズタイプパラメータ表示領域右側のドロップダウンリスト（下向き矢印をマウスでクリックすると表示）内にはAll Eraseおよび各ブロックのアドレス領域（xxxxxxH~xxxxxxH）が表示されますのでブロック消去方法を選択してください。

2) OKボタン

ブロック消去を実行します。

3) Cancelボタン

コマンドを中止します。

7. Device batch macroinstruction (デバイス一括マクロ)

デバイス一括マクロコマンドはMCUのNORMAL領域およびBOOT領域を一括で読み出しおよび書き込みを行うコマンドです。デバイス一括マクロコマンドを使用する場合は、MCUユニット上のSW1を“NORM+BOOT”に設定してください。

本コマンドは書き込み済みのMCUからデータを読み出し、ブランク品のMCUに読み出しデータを書込む等の作業を行う際にご使用ください。

デバイス一括マクロコマンドのパラメータ入力ダイアログを図7. 1に示します。

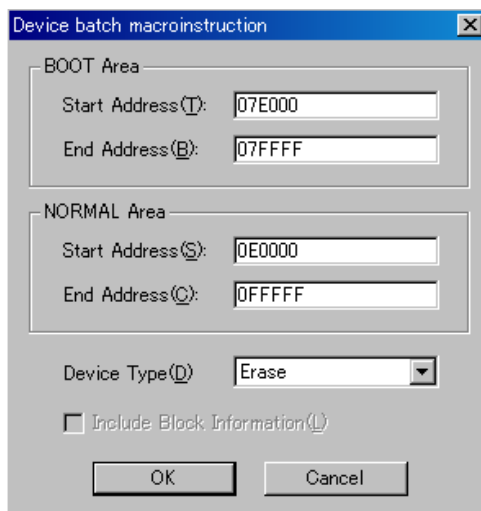


図7. 1 デバイス一括マクロコマンドパラメータ入力ダイアログ

- 1) **Start、End Address** (開始、終了アドレス (BOOT領域))
 BOOT領域に読み出したりは書き込みを行う領域を指定します。
 本パラメータには7E000Hから7FFFFHまでの領域を指定してください。

※BOOT領域はNORMAL領域とアドレス空間が重複しているためEFP-I本体
 内蔵RAMの7E000Hから7FFFFHをBOOT領域用のワーク領域に割当て
 ています。

ワーク領域の概略図を図7. 2に示します。

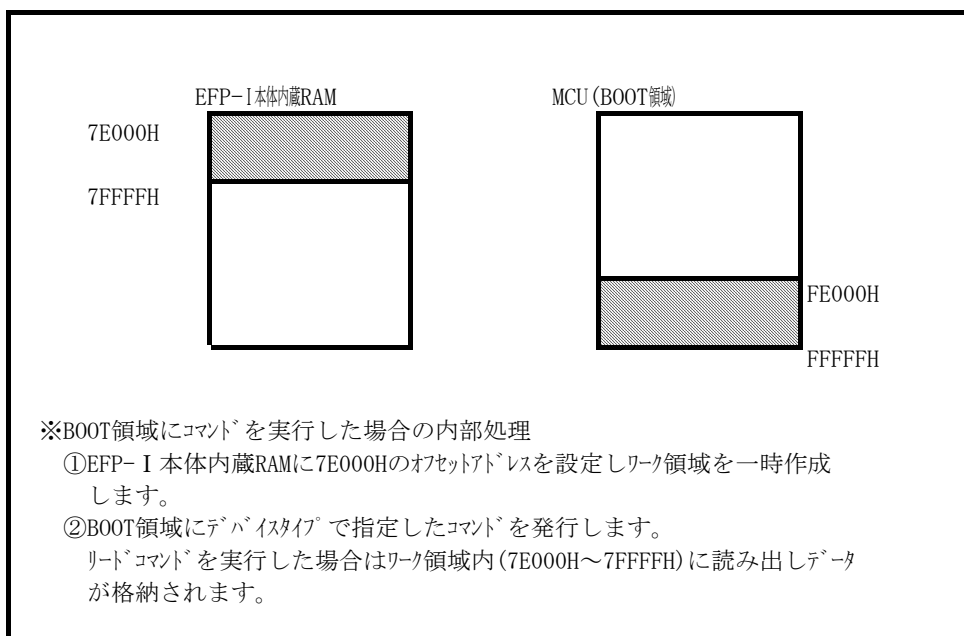


図7. 2 ワーク領域概略図

- 2) **Start、End Address** (開始、終了アドレス (NORMAL領域))
 NORMAL領域に読み出したりは書き込みを行う領域を指定します。
 使用するデバイスのNORMAL領域内のアドレスを指定してください。
- 3) **Device Type**
 発行するコマンドを指定します。本パラメータ表示領域右側のドロップダウンリスト
 (下向き矢印をマウスでクリックすると表示) により選択してください。
- 4) **Include Block Information** (ブロック情報も含む)
 本ユニットでは設定できません。
- 5) **OKボタン**
 デバイス一括マクロコマンドを実行します。
- 6) **Cancelボタン**
 コマンドを中止します。

※デバイス一括マクロコマンドの使用例について

デバイス一括マクロコマンドを使用し、書き込み済みのMCUからデータを読み出しブランク品のMCUへデータを書込む場合の使用例を以下に示します。

- 1) EF3022F-120YのSW1を“NORM+BOOT”に設定し、WinEFPメニュー
 内の [Device] → [Device batch macro instruction]
 を選択します。
- 2) 書き込み済みのMCUをEF3022F-120Yに挿入します。デバイス一括マクロコマンド
 の開始、終了アドレスは任意のアドレスを設定し、デバイスタイプを“リード”に
 設定しOKボタンをクリックします。
 コマンドが正常に終了した場合はEF3022F-120YからMCUを取り出します。

- 3) ブランク品のMCUをEF3022F-120Yに挿入します。デバイス一括マクロの開始、終了アドレスには任意のアドレスを設定し、デバイスタイプを”プログラム”に設定しOKボタンをクリックします。

8. EFP-I内蔵RAMの自動オフセットアドレス

EFP-I本体内蔵RAMの容量は512Kバイトであるため、0Hから7FFFFFFHの領域が使用できる領域となります。

M16C/22シリーズの内蔵フラッシュメモリのアドレス領域はE0000HからFFFFFFHのため

EFP-I本体内蔵RAMの領域が不足しています。そのためWinEFPは80000HのHEXオフセットアドレスを自動で設定し、EFP-I本体内蔵RAMの0Hが80000Hとなり終了アドレスがFFFFFFHになるようにしています。

※WinEFPウィンドウメニュー内の[E d i t]内のコマンドの開始、終了アドレスパラメータには80000HからFFFFFFHのアドレスを指定してください。

自動オフセット(80000H)のため、0Hから7FFFFFFHのアドレスは使用できません。

※80000Hの自動オフセットはHEXオフセットアドレス等に表示されていません。

HEXオフセット等にアドレスを入力すると、80000Hに入力したアドレス値を加算したオフセットが設定されます。